



有功会ながの

発行
事務局

長野県赤十字有功会

日本赤十字社長野県支部

〒380-0836 長野市南県町1074

TEL 026-226-2073 FAX 026-223-4181

URL <https://www.jrc.or.jp/chapter/nagano/>



あけましておめでとうございます。有功会員の皆さまには、健やかに新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

昨年中は本会の活動に深いご理解と温かいご支援を賜り厚く御礼を申し上げます。

昨年を振り返ってみますと、1月から3月にかけて、長野県においても初となる新型コロナウイルス感染症の「まん延防止等重点措置」が適用され、医療をはじめとする幅広い事業分野で県の緊急支援対策が実施されるなど、コロナウィルスの脅威を再認識する年明けとなりました。一方、感染防止と社会経済活動を両立する動きが加速し、全国旅行支援や外国人観光客の受け入れなど行動制限が緩和されたことにより、皆さまの中には、離れて暮らすご家族やご友

人との再会が叶ったなど、明るい話題も増えたのではないかと推察しております。

当会におきましても、このように、徐々に日常が取り戻される中、5月には、関副支部長（長野県副知事）にご出席を賜り、3年ぶりに長野県赤十字有功会総会を開催することができました。また、11月には、東日本大震災の復興支援と震災遺構から教訓を学ぶことを兼ね、会員相互の親睦と赤十字への理解を深める研修旅行を実施しました。

昨年12月にカタールで開催されたサッカーW杯において、チームを率いた森保監督が試合終了後の会見で『選手たちは、新しい時代を見せてくれた。』とコメントするほど、選手たちの激闘は、我々

に勇気と感動を与えてくれました。本年の干支は、癸卯（みずのと・う）で、新しいことにチャレンジするのに適した年とも言われています。当会といたしましても、この不透明の時代だからこそ、赤字が社会変化に順応しながら2027年に迎える創立150年に向けてさらに飛躍できるよう、支援を継続していきたいと思えます。引き続き、会員の皆様の温かいご支援とご協力をお願い申し上げます。

おわりに、本年も会員の皆さまが健康で幸多き年でありませうと祈念し、年頭のご挨拶といたします。



令和4年度 有功会総会の開催



石井会長の挨拶
 関長野 県支部副
 支部長
 (長野県)

副知事)にご出席を賜り、令和4年度長野県赤十字有功会第29回総会を、5月25日、長野市の「ホテル国際21」において開催しました。昨年、一昨年と、新型コロナウイルス感染症の蔓延により、書面による開催を余儀なくされましたが、今年度は、議事後の講演会を割愛するなど、感染対策の徹底・規模縮小などを講じたうえで、3年ぶりに一堂に会して開催することができました。

例年、赤十字運動月間である5月に開催しているこの総会は、会員や前年に赤十字事業にご協力をいただいた表彰受章者などが参加し盛大に開催しておりますが、今年度は、約50名が参加しました。

総会では、石井会長の挨拶の後、関副支部長から、赤十字に多額のご寄付をされた23名の方々に対し、



受章された方々

有功章等の表彰伝達が行われ、その後の議事では第1号議案「令和3年度の事業報告・収支決算報告」、第2号議案「令和4年度の事業計画案・収支予算案」について審議され、いずれも原案どおり承認されました。来年も、多くの会員や表彰者に参加いただける総会になることを祈念いたしております。

令和4年 全国赤十字大会への参加

日本赤十字社名誉総裁の皇后陛下、同名誉副総裁である秋篠宮皇嗣妃紀子殿下、寛仁親王妃信子殿下、高円宮妃久子殿下のご臨席を仰ぎ、令和4年全国赤十字大会が5月19日、東京都渋谷区の明治神宮会館で開催されました。

昨年、一昨年は新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、中止又はオンライン開催という異例の対応を余儀なくされましたが、今回は感染防止策を徹底し、3密を避けるための規模縮小などを講じ、3年ぶりの開催となりました。例年、会場には全国から会員やボランティアの代表約3,000名が参加しますが、今年度は人数制限のため、当会からは4名の会員に参加いただきました。

例年5月の赤十字運動月間に開催されているこの大会は、赤十字活動に著しい

功績のあった個人や団体を表彰する場でもあり、今年度は、全国の代表13名に皇后陛下から有功章が授与されました。また、式典では、大塚義治社長(当時)のあいさつの中で、コロナ医療の最前線で献身的に業務に当たるスタッフへの敬意と、全国から寄せられる温かなご支援に感謝の意が表されたほか、来賓の方々がお祝いの言葉を



明治神宮会館にて

述べられました。

さらに、武蔵野赤十字病院長の泉並木氏からは、新型コロナウイルス感染症拡大における初期段階の対応や取り組みが報告され、医療現場における切迫した緊張感や職員の献身的な診療を知ることができました。また、本年は、青少年赤十字創設100周年を迎える節目であり、埼玉県青少年赤十字卒業生奉仕団の副団長・加藤緩風さんから、「奉仕」の精神を育んだ同赤十字での活動発表と大妻中野中学校・高等学校合唱部180名による100周年合唱ムービーが上映されました。皇后陛下は登壇者の話に、時に大きくうなずかれながら、熱心に耳を傾けられました。

また、ウクライナの人道危機における赤十字活動についての紹介もあり、参加者は国内外で活躍する赤十字活動に触れ、今後の更なる赤十字事業の進展につながる事が期待されます。



旧防災庁舎にて献花



旧防災庁舎にて語り部の方から説明を受ける参加者

や近隣の方など尊い命が助かったとされる「高野会館」では、バスから降り、実際の津波浸水高を実感。また、「門脇小学校」の児童が逃げて助かったとされる小高い丘の上にある神社や数軒だけが流されずに残った家屋等については、車窓から説明を受け、凄まじい津波の恐ろしさを実感

秋のみちのく

東日本大震災 震災遺構をめぐる3日間



新型コロナウイルスの影響により2年間先送りにされていた有功会研修旅行は、令和4年11月6日から8日までの2泊3日、事務局を含めた総勢10名の参加者により、東日本大震災で大きな被害を受けた宮城県と福島県の震災遺構を巡

る旅となりました。この旅行記では、さまざま視察地を訪れてきた中から、いくつかの震災遺構に焦点を当てて触れてみたいと思います。まず、1日目の午後、宮城県登米市にある昔の建造物や当時を偲

ばせる貴重な品々に風情を感じたあとに、語り部の方とともに「南三陸町震災復興記念公園」等震災遺構施設をバスにて巡回しました。20mを超える津波が押し寄せたという「戸倉小学校」や、当時スタッフ等の判断により、避難され

南三陸町防災対策庁舎の悲劇はあまりにも有名ですが、無残にも3階建て屋上2mの高さまで津波に飲まれた鉄骨造の庁舎は、復興記念公園内にひっそりと赤い鉄骨だけの姿で保存されています。設置された献花台に御花を手向け、参加者全員で手を合わせ、震災による犠牲者のご冥福をお祈りしました。

震災を風化させない語り部の話



南三陸町の語り部の方から説明を受ける (高野会館)

で、とても印象に残った言葉が「津波でんでんこ」。「てんでんこ」(それぞれ・各々・各自)に三陸地方(青森県・岩手県・宮城県の沿岸部)の方言が加わり「てんでんこ」となったと言われています。この三陸地方は、幾度も津波の被害にあつてきた地域のため、「津波が起きたら、他の人のことは気にせず、それぞれで逃げろ」という意味で

1990年に防災標語として生

まれ、子ども達に伝えられている言葉だそうです。ご案内いただいた語り部の方も、昭和35年(1960年)に発生したチリ地震による津波を体感されたお義母様の教えで助かったと話してくださいました。時代を超えて、人々に受け継が



大川小学校での語り部の方から説明に熱心に耳を傾ける

れてきた言葉とともに、震災を忘れないために涙ながらに実体験を語ってくださいました語り部の方に感謝であります。参加者からは、「報道からは得られない貴重な情報で改めて震災のすさまじさを体感し、大変勉強になった。」「震災時に行き場のなくなった被災者を受け入れたという「ホテル観洋」に宿泊し、当時のお話を聞き、女将さんの決断と従業員の結束に、ただただ頭が下



大川小学校にて犠牲者のご冥福をお祈りする参加者

がりました。」「案内いただいた語り部から震災当時からこれまでに至る話を聞き、涙無しにはいられませんでした。」「などと感想をいただきました。1日目の夕食は、宿泊先の「ホテル観洋」にて、参加者全員で一緒にいただき、親睦を深める良い機会となるとともに、その土地ならではの新鮮な海の幸に、一同舌鼓を打ちました。2日目に向かったのが、児童と



東京電力廃炉資料館にて

被災に遭われた語り部の皆さまが、苦難の道を歩まねながらも、未来の災害に対する減災のため、防災教育にご尽力されていることに心より敬意を表したいと思います。

福島県に向かう高速道路には、常磐道のみを設置されているという空間線量を示す表示板が道路脇にあっ

教職員合わせて84名が犠牲となった石巻市の「大川小学校」。子どもを亡くされた語り部のご家族から、津波により、へし折れたコンクリートの柱やむき出しになって歪んだ鉄筋、水圧で持ち上がった校舎の2階の床など、残された建物や写真を見ながら当時の様子についてお話を頂きました。

参加者からは、「大切なお子様を亡くされたご遺族の怒りや無念さは、想像を絶するものであると

痛感しました。このような事故を二度と繰り返さないよう、絶対に大川小学校の惨事を風化させてはいけないと感じました。」「小学校や旧役場等の遺構を被災当時の姿で保存しておくことは将来への戒めとして大切な役目ですが、補助制度がなく劣化していつてしまうとの話もあり、残念です。」「災害大国日本として、日頃からの避難先等備えの重要性を再認識しました。」など、語り部の方からの話

に感銘を受けたのと同時に今後の復興に対する思いも改めて感じられた視察でもありました。

被災に遭われた語り部の皆さまが、苦難の道を歩まねながらも、未来の災害に対する減災のため、防災教育にご尽力されていることに心より敬意を表したいと思います。

福島県に向かう高速道路には、常磐道のみを設置されているという空間線量を示す表示板が道路脇にあっ

たり、車窓からは、福島第一原発事故による「帰還困難地域」が見られたりと11年経った今でも震災の爪痕が残っていました。

原発の不毛地帯、荒れ果てた田畑や無人となり朽ちていく家屋等を目の当たりにし、被災者の気持ちを考えてると暗たんたる気持ちになり、大きなショックを抱いたと話される参加者もいました。

放射能汚染の立ち入り禁止区域を通過し、向かったのが福島県で最初の視察地となる「東京電力廃炉資料館」。

東日本大震災の津波によって発生した原発事故の経緯と対応を振り返るとともに、東京電力の廃炉作業の計画と進捗を発信するため2018年11月にオープンした建物で、館内は、福島第一原発の廃炉に関する史料が部門別に分けられて展示されていたほか、「シアターホール」では、地震と津波が原発事故を引き起こすまでの経過や現場の対応

を当時の新聞報道などを織り交ぜながら振り返る映像が流れていました。

また、1〜4号機それぞれの事故の詳細や、同じく外部電源を喪失しながら事故を免れた福島第二原発の地震後の対応なども、オプジェと映像を組み合わせて分かりやすく展示されておりました。

この日の宿は、福島県いわき市にある「ホテルハワイアンズ」。

それぞれビュッフェスタイルでの

東日本大震災の津波によって発生した原発事故の経緯と対応を振り返るとともに、東京電力の廃炉作業の計画と進捗を発信するため2018年11月にオープンした建物で、館内は、福島第一原発の廃炉に関する史料が部門別に分けられて展示されていたほか、「シアターホール」では、地震と津波が原発事故を引き起こすまでの経過や現場の対応

を当時の新聞報道などを織り交ぜながら振り返る映像が流れていました。

また、1〜4号機それぞれの事故の詳細や、同じく外部電源を喪失しながら事故を免れた福島第二原発の地震後の対応なども、オプジェと映像を組み合わせて分かりやすく展示されておりました。

この日の宿は、福島県いわき市にある「ホテルハワイアンズ」。

それぞれビュッフェスタイルでの



白水阿弥陀堂にて

夕食を楽しんだ後は、隣接するウォータerparkで、このホテルならではのポリネシアンショーを鑑賞。広いステージで舞い踊るフラガールやファイヤードンサーのショーは、迫力と感動そのものでした。

最終日、3日目は、今から862年前の1160年に、藤原清衡の娘・徳姫が、夫である岩城則道公の供養のために建立したといわれる平安時代後期の代表的な阿弥陀堂建築であり、福島県唯一の国宝建造物に指定されている「白水阿弥陀堂」へ。

イチヨウが鮮やかに色づいた浄土庭園から御堂をバックに記念写真を撮影し、御堂へと向かいました。

お寺の方が「白水阿弥陀堂」にまつわる話から極楽浄土の話まで、ユーモア交えてわかりやすく流暢に話をしてくださいました。

次に向かったのが、「塩屋崎灯台」のたもとにあり、故美空ひばりさんの名曲「みだれ髪」の歌碑や遺影碑、永遠のひばり像が建て

られている「雲雀乃苑」。

福島県いわき市は、東日本大震災で大きな被害を受け、近くの薄磯海岸地区は大津波で多大な被害を受けたところでしたが、「雲雀乃苑」はほぼ無傷で残ったことから、地元では『「永遠のひばり像」は、まさに不死鳥のように立ち続けている』と話題になったとのこと。

時間の都合上、今回は、「塩屋崎灯台」には登らず後にしました。が、全国に16基しかない「のぼれる灯台」の一つとして有名な灯台ですので、機会があれば訪れてみてはいかがでしょうか。

最後の視察地となる東北地方最大級の規模を誇る水族館「アクアマリンふくしま」では、約800種類、7万点の生き物を観賞。足早に広い館内を回った後は、福島県いわき市小名浜にある海鮮料理のお食事処で地元ならではの新鮮な海産物にこだわった御膳をいただきます。

昼食後、各々想い出を胸にバスに乗り、郡山駅に移動。ここで、

3日間お世話になった運転手、豊富な知識により現地の多くの情報を私たちに与えてくださったガイドさんに別れを告げ、各所で購入した沢山のお土産を手にも東北新幹線やまびこと北陸新幹線はくたかを乗り継ぎ、帰路につきました。

コロナ禍により3年ぶりの開催となった有功会研修旅行でしたが、今年度は3日間とも天候に恵まれ、素晴らしい青空のもとでの研修となりました。

参加された皆さまからは、「研

修と観光。これまでの有功会旅行と同様に大変中身の濃い充実した旅行でした。」「この研修旅行を通じて、命の大切さ、伝承することの重要性など改めて感じました。」「天災を完全に防ぐことは困難な中、災害対策はまず人命を守ることを基本とすべきと強く感じました。」などと今回の東北地方への研修旅行を通じて多くの感想をいただきました。

ご参加いただいた皆さま、ありがとうございました。



塩屋崎灯台を背に「雲雀乃苑」にて

赤十字事業への協力

令和4年度は、長野県支部の災害救護体制の強化とコロナ禍により急速に進展したデジタル化を支援するため、支部庁舎に可搬型の大型テレビ（70型）を整備しました。

この整備により、災害時に刻々と変化していく情報収集力が向上することをはじめ、WEBを活用した円滑な会議運営や効果的な研修の開催ができることが期待されます。

長野県支部の職員からは、各種事業の推進はもちろんのこと、快適な職場環境を整えていただいた、と感謝の言葉が寄せられました。



寄贈した大型テレビ（70型）



あなたの思いを赤十字に 遺贈・相続財産寄付をお考えの皆さまへ

近年、「自分で築いた財産の一部を寄付したい」、「故人の遺産を社会のために役立てたい」という声を多くいただいております。日本赤十字社を通じて、ご自身の財産や故人の意志を広く社会に役立てていただくことができます。

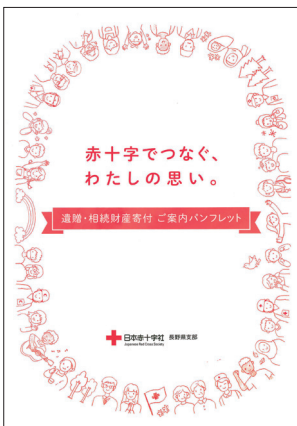
遺言等によるご寄付（遺贈）や相続財産のご寄付などの尊いご意志に因應するため、日本赤十字社長野県支部では、寄付の方法や税制上の優遇措置などを掲載したパンフレットをご用意しております。

遺 贈：遺言によって財産の全部または一部を団体などの第三者に与えること
相続財産寄付：相続により取得した財産の全部または一部を寄付すること

詳細については、左記までお問い合わせください。

お問い合わせ先

日本赤十字社長野県支部 組織振興課
電話 026-219-2100



遺贈・相続財産寄付
ご案内パンフレット



WEB広告バナー
(日本赤十字社長野県支部
ホームページ掲載)

活動資金にご協力 いただいた方々(敬称略・五十音順)

紺綬褒章

- 個人
大久保千賀子 中野武
納富廣幸

厚生労働大臣感謝状

- 個人
小口邦彦 小古井豊
鶴田憲應 野村稔

法人・団体

株式会社セリオテック

社資功労感謝状

個人

- 今井正武 大久保千賀子
小口邦彦 小古井豊
坂田真由美 塚田千里
納富廣幸 野村稔
福本久美子

法人・団体

- 株式会社青木鐵工所
株式会社栄建
株式会社エイワ機工
川上陸送株式会社
国際ソロプチミスト諏訪
株式会社信防エディックス
株式会社タカベ精工

金色有功章

- 株式会社徳永電機
株式会社とをしや薬局
株式会社中嶋製作所
長野通運株式会社
ナパック株式会社
有限会社二村不動産
株式会社丸山工務店

個人

- 伊藤武利 猪坂ヤスエ
春日美智子 篠原千鶴子
清水敏博 杉野文保
鶴田憲應 中澤美紀
鳴澤真也 宮坂信光
宮下由子

法人・団体

- 飯田清掃株式会社
大浜工業株式会社
オリオン機械株式会社
川上陸送株式会社
小林製袋産業株式会社
株式会社ジョイフル・テン
信州ガス株式会社
有限会社春原工業所
株式会社スワリク
株式会社セリオテック
ソニック株式会社
長野県環境開発株式会社
日東電気工事株式会社
はやしやグループ
株式会社藤澤組
マルヤス機械株式会社
株式会社ミク口発條

銀色有功章

個人

- 安保充彦 荒木武貴
柄澤重登 北原茂明
久保田光重 小山芳弘
中島健司 松木健三
山之上仁 横江凌

法人・団体

- 安曇石産株式会社
安保塗装株式会社
株式会社アルカディア
飯山陸送株式会社
株式会社宇敷工務店
株式会社内山組
医療法人及田歯科医院
株式会社太平洋
ティーシーメンテナンス株式会社
有限会社常田木工所
長野県火災共済協同組合
長野ダイハツ販売株式会社
長野保健医療大学
有限会社フィオーレ福祉会
株式会社わかば地所

新会員の紹介

(敬称略・五十音順)

個人

- 小林邦一 塚田次郎
中野武 橋本操

法人

- 長野保健医療大学
野村ユニソン株式会社

あとがき

健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。
本年も無事に第30号を発刊する運びとなりました。

昨年は、世相を表す漢字に「戦」が選ばれました。人々の様々な想いを反映して選ばれた文字ですが、ウクライナに甚大な人道危機を招いた戦争の恐ろしさを再認識した反面、サッカーW杯カタール大会や過去最多となる18個のメダルを獲得した冬季五輪北京大会での熱戦・挑戦する選手たちに歓喜し、平和の大切さを実感する一年でありました。

本年は、「日本赤十字社長期ビジョン」の第二次中期事業計画(令和5・7年度)が始まる年であり、2027年の創立150年に向けた長期ビジョン達成への大きなステップとなるよう、引き続き、安心・安全に寄与する赤十字活動を推進してまいります。

会員の皆さまにおかれましても、会員の増強をはじめ赤十字事業へのさらなるご支援・ご協力をお願い申し上げます。

本年も会員の皆さまのご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。最後に、有功会発足当初から、本会の伸展にご尽力いただきました島孝一様(鍋林株式会社・有功会常任世話人)が令和4年5月24日にご逝去されました。ご生前のお姿を偲び、心よりご冥福をお祈りいたします。(有功会事務局)